

■令和6年度版『ひろがる言葉 小学国語』4年 年間指導計画・評価計画(案)

「学習内容」…△知識・技能 ◇話すこと・聞くこと ■書くこと □読むこと

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
よく見て、よく聞いて、受け止めよう つないで つないで 教科書：P8 ◇相手が言葉や動きをとおして伝えたいことは何か考えながら聞き、相手が伝えたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。 ☆学習用語：連想／ジェスチャー	<見通しをもとう> * リード文を確認する。 * リード文を確認し、活動の見通しをもたせる。 * 「れんそうゲーム」の流れを確認する。 * 数名の児童が見本を提示したり、p8のQRコードから動画でゲームの流れを確認したりする。 * 3. ペアで「れんそうゲーム」をする。 * 相手の言葉を受け取り、連想した言葉を手返す、言葉のキャッチボールをする。どの子も安心して参加できるようにする。 * 4. グループで「れんそうゲーム」をする。 * 4人程度の小グループを作る。 * 時間できき、メンバーを変えて行う。 * 全員が慣れてきたら始まりの言葉を決めて、連想しながら終わりの言葉にたり着くという条件をつける。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことか思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1/A) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A/1エ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A/2ア) 【態度】 ・相手の言葉や動きを受け止め、相手が伝えたいことは何かすずんで考え、自分の考えをもつようとしている。
	5. 「ジェスチャーゲーム」をする。 * 「ジェスチャーゲーム」の流れを確認する。 * 4人程度の小グループを作る。 * 時間できき、メンバーを変えて行う。 <ふり返ろう> 6. 学習の振り返りをする。 * 言葉で伝えることと体で伝えることの違いについて考えさせよう、言葉、身振りや手振りを組み合わせることで、より伝えやすくなることにも気づかせる。	
楽しく声に出して読もう 春のうた／あり 教科書：P10 □繰り返し音読をしながら、言葉のリズムや響きを楽しむ、イメージの広がりを楽しむ。 ☆学習用語：音読／作者／題名／様子	1. 『春のうた』の範読(教師の範読か、デジタル教材の音読)を聞いて、詩の世界のイメージをもつ。 2. 繰り返し音読し、それぞれの「ケルルン クック。」の読み方を話し合う。 * 動作化を積極的に取り入れる。特に擬音語「つるつる」「そよそよ」を、手を用いた動作化をして、言葉のイメージを身体でつかめるようにする。 * 一連と四連で「ほっ」が繰り返されていることに注目させる。「まぶしい」から、「おおきくもがうこいてく。」と、感覚が目覚め、気持ちも高ぶってくることを理解させ、それが「ケルルン クック。」の鳴き声に反映されるように感じさせたい。 3. 春を喜ぶかえるの姿を想像しながら、「ケルルン クック。」の読み方を工夫しながら音読する。 * 詩全体が「春のうた」ではあるが、それを支えているのは「ケルルン クック。」の響きである。間や声の調子、リズムなどを考えて音読させるようにする。 4. 『あり』を音読する。 * 「ありーありーこないさ」の音の連読と繰り返しを楽しみながら音読する。 * 「『あり』だから『ありーこないさ』という音の連読への気づきを大事にして、繰り返し(リフレイン)を楽しみながら読むようにさせる。 * 各連が三行であることに気づかせる。 * 「十八メートル」という数字が出てくるので、具体的にどのくらいの長さかを発問して、大きさを捉えられるように配慮する。 * 想像したありの姿のイメージが膨らむような音読、歌うように繰り返し読みのフレーズを楽しむ音読を工夫して調子よく読ませる。	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1/1ク) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けに具体的に想像している。(C/1エ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C/2イ) 【態度】 ・すずんで、登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し、学習の見通しをもつて音読したりイメージを広げたりしようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
ー 物語の「ふしぎ」について考えよう 白いぼうし 教科書:P14 口物語の「ふしぎ」について考え、短い言葉で表し、紹介し合う。 ★ここが大事: できごとのきっかけをとらえる ★学習用語: 文／漢字／物語／場面／気持ち／地の文／様子／会話／登場人物／性格／言葉／ふしぎ／においや香りを表す言葉／できごとのきっかけ	<見通しをもとう> 1. 「物語の『ふしぎ』について考える」という学習の見通しをもつ。 (1) 題名「白いぼうし」から、どんな物語か想像する。 (2) 教師の範読を聞き、感想をノートに書く。 ＊作品から受けた感じ、疑問に思ったことをノートに書く。 (3) 感想を話し合う。 ＊子どもたちの素直な感想を受け止め、単元の学習課題につなげる。 ＊「女の子」や「もしもしろう」に不思議を感じる児童が多いと予想される。子どもたちが「あれ?」と不思議に思う気持ちを活かして学習課題の設定につなげたい。 (4) 単元名やリード文から、単元の学習課題「物語の『ふしぎ』について考えよう」について見通しを持つ。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(11才) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(11-イ)) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(11エ)) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C(2-イ)) 【態度】 ・不思議なできごとが起こるきっかけを見つけないがらすんで物語の「不思議」に思うところを見つつけ、「不思議」について考えたことを短い言葉で表し、伝え合おうとしている。
	<たしかめよう> 2. 場面の様子と登場人物を整理し、不思議だと思ったことを見つめる。 (1) 物語を読んで、不思議だと思った場面とその理由をノートに書く。 ＊どんなところが不思議だったか、具体的に示せるようにする。 (2) 全体を四つの場面に分け、それぞれの場面で、松井さんが出会った人や、もの・ことを確かめる。 ＊場面に分けるには、「時・場・人物」に着目することを確認する。 ＊それぞれの場面で松井さんがどのような人物やもの・ことに出会っているか、ノートに整理する。 ＊表の形で整理すると考えをまとめやすいことに気づかせる。	
	<くわしくよう> 3. それぞれの場面の、松井さんの様子や気持ちを想像して、考えたことを話し合う。 (1) 場面ごとの松井さんの様子や気持ちを、2(2)で整理したもの(1)に書き加え、松井さんの人柄を捉える。 ＊P26の「言葉」とも関連させ、松井さんが関わった人物に着目しながら読むと、それぞれの登場人物の人物像が浮かび上がったり、その人物と接している松井さんの気持ちや人柄がより具体的に想像できたりする。	
	(2) 「ふしぎ」に思ったことと関係がありそうなところを見つけ、考えたことを友達と話し合う。 ＊P27の「ここが大事」を確認し、不思議なできごとが起こるきっかけを見つけないがらつなぎ合わせて読み、不思議なできごとが起こった理由や結果を考える。 ＊松井さんの人柄と関連づけて考えることで、物語の「ふしぎ」が松井さんの人柄と結びついていることのおもしろさを味わわせたい。	
	<まとめよう> 4. 物語の「ふしぎ」について考えたことを、ノートにまとめる。 ＊2と3の学習活動を振り返りながら、考えたことをできるだけ具体的に書くようにする。	
	<つたえあおう> 5. 物語の「ふしぎ」についてまとめたものを短い言葉で表し、紹介し合う。 (1) ★の学習活動でノートにまとめた考えをもとに、物語の「ふしぎ」について端的に短い言葉で表す。 ＊P27の「ここが大事」を改めて確認し、作品の「ふしぎ」を生み出している言葉のつながりを意識しながら考える。 (2) 物語の「ふしぎ」をまとめた短い言葉を、友達と紹介し合う。 ＊短い言葉だけでなく、なぜその言葉で表したのか、理由もあわせて紹介する。	
	<ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1) 物語を「ふしぎ」について考えながら読むと、どのようなつながりが見つかったか振り返る。 ＊「ふしぎ」なできごとが起こるファンタジー作品の魅力やおもしろさを改めて実感させたい。 ＊P27「本を読もう」やP16「14年生で読みたい本②」のファンタジー作品を紹介し、読書の広がりにつなげたい。 (2) 短い言葉で物語の「ふしぎ」を表すとき、どのようなことに気をつけたか振り返る。	

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価標準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
自分の気持ちに合った言葉で表そう 見つけよう、びったりの言葉 教科書：P28 ■心が動いたできごとを、短い文章で表現する。	1. 学習の流れを知り、見通しをもつ。 ＊少しずつ書き溜めていく活動であるので、意欲を継続させるためにも、書く目的を決めて取り組むようにさせる。 2. 心が動いたことを思い出す。 (1)心が動いたできごとをメモに書く。 (2)友達と交流する。 3. 心の様子を直接的な表現を使わないで表現する。 (1)教科書の例文2作品を読む。 (2)自分で工夫した表現を考える。 ＊既習の教材文の中から探してよいことを伝える。その際、文章の中の会話文・情景描写・行動や様子を表す部分に着目させる。 4. 心が動いたことを書いたメモの中から、一つを選ぶ。 ＊なぜ、心が動いたのか(新しい発見や感情の揺れ動きの原因)について考えさせる。 ＊心の様子を、工夫した表現で表すように伝える。 5. 文章を書く ＊5、6文ぐらいの短い文章で書くようにさせる。 ＊気楽に書かせ、書くことを習慣づけるようにさせる。 6. 文章を読み返し、よりよい表現があれば書き直す。 7. 心が動いた瞬間についてさまざまな表現の仕方があることを知る。 ＊書き溜めたものは、下巻の第七単元「自分の成長をふり返って」の話題・題材を選ぶ際に活用することを確認する。 8. 心が動いた瞬間を表現する言葉を選ぶとき、どんなことに気をつけたか振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。((1)ア) ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。((1)ウ) 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ) 【態度】 ・すすんで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、学習の見通しをもって、心が動いたできごとを短い文章で表現しようとしている。
漢字の広場① 漢字の部首 教科書：P30 △漢字の部首について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 ★学習用語：あし／かんむり／つくり／部首／へん	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字の部首について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ＊部首についての知識は、P50からの『漢字辞典の使い方』の学習に結びつく。 2. 共通している部分から、何に関係のある漢字かを考える。 ＊「漢字を主に意味のうえでなま分けするときに、目印とする部分」が「部首」であることをおさえる。 ＊「部首と漢字の意味には深いつながりがある」ことを「日」「木」を部首とする漢字をもとに、具体的に考えられるようにする。 3. P30の下端の設問を解きながら、部首と漢字の意味とのつながりなどについて話し合う。 ＊部首は、「へん」だけではなく、また、「へん」が部首とは限らない場合がある。 4. P31の上段の設問に提示している漢字について、それぞれの部首を考える。 ＊提示してある部首の形に着目し、それぞれの漢字のどの部分に目印となる形が含まれているかを見つけられるようにはたきかける。 ＊偏旁冠脚については三下で学んだ。 ＊ここに示す部首の呼称は、代表的なものである。「ほくづくり」は辞典によれば「ほくによう」「のぶん」などと呼ぶこともある。また、「女」がへんの位置にくると「おんなへん」、「雨」がかんむりの位置にくると「あめかんむり」とも呼ばれる。 5. 巻末の『漢字を学ぼう』を使って、同じ部首の漢字を集める。 ＊ここでは、代表的な部首とその呼び名について理解させておきたい。 ＊漢字の組み立てと意味に興味をもてるようにする。興味、関心がこのあとの『漢字辞典の引き方』に結びつくようにしたい。 ＊それぞれの部首が、どんな意味に関係しているかを考えるのは、想起できるおおよその範囲でいい。 ＊それぞれの漢字の部首や部首の呼称などは、漢字辞典によって異なるものもあることをおさえる。	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・すすんで、漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習の見通しをもって、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。

單元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
三年生で学んだ漢字① 教科書:P32 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	6. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P32の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊各自ばらばらに読むのではなく、言葉一つ一つを全員で声に出して読むようにし、読み方を確認できるようにする。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 7. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 8. 作った文を互いに発表し合う。 ＊正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 ＊書いた文や文章を互いに読み合ったり音読し合ったりして、その内容や表現について、感想や意見を述べ合い、自分の文や文章のよいところを見つけるようはたらきかける。 9. 学習を振り返る。 ＊漢字の部首について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B(1)才) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B(2)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
二 けっかと考察とのつながりをとらえよう ぞうの重さを量る 教科書:P34 口象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を、叙述をおさえながら読む。 ★学習用語:筋道	1. 題名と本文を結びつけて、誰がどのようにして象の重さを量ったのか確認する。 ＊P34上段に書かれているてびきを利用して読み取る。 2. 「わかりやすい文章」とはどのようなものか考える。 (1)この文章の読みやすさを考察する。 ＊P35上段の「考えるすじみち」やイラストを利用して、「まず」「次に」「最後に」という文の構成が分かりやすさのポイントであることを確認する。 (2)自分でも「まず」「次に」「最後に」を使って、簡単な文章を書いてみる。 (3)学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・すすんで、読みやすい文章のポイントについて考えることをとおして、学習課題にそって、筋道立てて文章を書くようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
二　　けっかと考察とのつながりをとらえよう 花を見つける手がかり 教科書:P36 □「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論、実験を繰り返していく考えの筋道などを、叙述をおさながら読む。 ★ここが大事: けっかと考察 ★学習用語: 記録／筋道／段落／結果／結論 ／考察／事実／比べる	<見通しをもとう> 1. 筋道立てて文章を読み、本文中にいくつ実験が書かれているか読み取る。 ＊「まず」は同じだが、「次に」と「最後に」は同義語になっているため、読み取る際に配慮が必要である。ただし、最初から違う言葉になっていることを告げることなく、言い換えに気づく子どもの姿を期待する。 <たしかめよう> 2. この文章の主題を読み取る。 (1)文章構成を明確にする。 ＊始め・中・終わりで全体を3つに分ける。 (2)この文章でどのような疑問を解き明かそうとしているのか話し合う。 ＊文章構成の特にどの部分を読む必要があるのか確認する。 (3)文章構成の「始め」の部分に書かれていることを意識づける。 3. 具体的な実験内容を表にまとめる。 ＊子どもの実態に応じて、個人作業を重視するか集団学習でまとめていくかは判断する。 <くわしくよう> 4. 実験1と実験2を比べて、日高先生たちの考え方の特徴を明らかにする。 5. 実験2と実験3で比べて、日高先生たちの考え方の特徴を明らかにする。 ＊第2時に作成した表を再度見直したり、本文を読み直したりして考える。 <まとめよう> 6. 結論部分を読み取る。 ＊疑問に対する答えを明らかにする。 7. 日高先生たちの実験の進め方と、結論について考えたことをノートにまとめる。 ＊ノートにまとめにくい場合は、小集団や学級全体で話し合ってからまとめるもよい。 <つたえあおう> 8. 前時までまとめたものを友達と読み合う。 (1)さまざまな友達との読み合いをする。 (2)読み合う中で見つけた、自分と友達との同じ点や違う点、友達の書いた内容のよい点についてノートに書く。 (3)書いたことを友達と交流する。 <ふり返ろう> 9. 3つの実験を表にまとめたとき、どのような言葉に気づいて行ったかを確認し、語彙を増やす。 10. この文章の学習を通して、自分が文章を書くときに生かしてみたい点を明らかにする。	【知識・技能】 ⑨主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)力) ⑩考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。(B(1)ウ) ⑨「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B(2)ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) 【態度】 ・積極的に、言葉に着目しながら実験内容を読み取り、学習課題にそって、段落相互の関係をおさながら文章を読もうとしている。
読書の広場① 分類をもとに本を見つけよう 教科書:P46 △学校や地域の図書館へ行き、「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり、図書館の分類の仕方を確かめたりする。 ★学習用語: 巻冊記号／所在記号／請求記号／図書記号／分類記号／ラベルの記号／日本十進分類法	1. 分類記号を手がかりに本を探すという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 2. 図書館の本の分類の仕方を知る。 (1)身のまわりで、分類されているものを考える。 (2)図書館に行き、本が内容ごとに分類され置いてあることを確かめる。 (3)「日本十進分類法」の仕組みを知る。 (4)ラベルの記号について知る。 3. 分類記号を手がかりに本を探す。 4. 分類記号を手がかりに、自分が読みたい本を探して読む。 5. 本を読んでわかったことや、本に関する情報などを「読書カード」に記録し、友達と読み合う。 (1)本に関する情報、調べたいこと、読んでわかったことや感想などを「読書カード」に記録する。 (2)「読書カード」を友達と読み合い、興味をもった本を探して読む。 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ⑩比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。((2)イ) ⑨幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(3)オ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C(1)ウ) 【言語活動例】 ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C(2)ア) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C(2)ウ) 【態度】 ・分類を手がかりに目的の本を見つけ、読んでわかったことを記録しようとしている。
言葉の広場① 漢字辞典の使い方 教科書:P50 △漢字辞典の引き方を理解し、活用する。 ★学習用語: 漢字辞典／総画数／漢字／音／訓／部首／画数／音訓索引／総画索引／部首索引／五十音順／片仮名／平仮名／見出し／索引／順序／筆順／漢字の成り立ち	1. 学習の見通しをもつ。 ＊教材冒頭の会話文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 教材文を読んで、漢字辞典の引き方を理解する。 ＊漢字の読み方や意味、使い方を正しくするには、漢字辞典を活用するとよいことに気づかせ、漢字辞典に興味をもたせる。 3. 手がかりによって、どの索引を活用すればよいかを理解する。 ＊教材文にそって漢字辞典の引き方を確認させ、理解させる。 ＊漢字辞典は、部首索引・総画索引・音訓索引のどれかを利用して引くことを確認させ、実際に引きながら確認する。 ＊辞典によって、漢字の並び方のきまりや記号の使われ方が異なることがあるので、自分の持っている辞典を確認し、使えるように指導する。 ＊筆順が載っているなど便利な機能もある場合があるので、それに気づかせ、辞典の活用の幅を広げることもできる。 4. 設問に従って、部首索引・総画索引・音訓索引を活用して漢字を調べる。 ＊一人一人が独力で、それぞれの引き方で調べられるようにする。 ＊どの索引を使えば引きやすいかを見当づけられるようにする。見当をつけさせて引かせ、友達どうしてどの引き方がわかりやすかったのかを発表させると、さらに引き方に慣れさせることができる。 ＊知らない漢字や熟語に出会ったときには、辞典を活用することの便利さを意識できるように、辞典の使い方に慣れさせておくことよい。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ⑩比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。((2)イ) ○漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。((3)ウ) 【態度】 ・積極的に辞書や事典の使い方を理解し、学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
必要なじょうほうを落とさないように聞こう メモの取り方のくふう 教科書:P54 ◇メモの取り方を工夫したり、質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ。 ★学習用語: 聞き取りメモ／理由／ポスター／縦書き／横書き／箇条書き	<見通しをもとう> 1. 話を聞いてメモを取った経験振り返り、どのような目的でどのようにメモを取ってきたのか、自分の経験をもとに話し合う。 ＊先輩が話を聞く場面でも工夫してきたことや、メモを取っていても困っていたことなどを整理しながら話し合っていくことよい。 2. 教師が工場長の前田さんの話を音読し、メモを取りながら聞く。 3. 自分が書いたメモを振り返り、よい点と課題が残る点を考える。 4. 自分が書いたメモのよい点と課題が残る点について話し合う。 5. 次時の学習の見通しをもつ。 ＊これからよりよいメモの取り方を学ぶことを確認し、次時への学習意欲を高める。	【知識・技能】 ⑩比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解している。((2)イ) 【思考・判断・表現】 ⑨「話すこと・聞くこと」において、必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。(A(1)エ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A(2)ア) 【態度】 ・メモの取り方を工夫したり、相手に質問したりしながら、必要な情報について積極的に聞き、自分の考えをもとうとしている。

単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	学習活動／＊留意点	評価標準 学習指導要領との対応
	<話そう・聞こう> 6. p.55を読んで、東野さんたちのメモの取り方の工夫を見つける。 7. メモの取り方の工夫について話し合う。 8. 自分に生かすことができるメモの取り方を考える。 9. 友達にインタビューをして、メモを取りながら聞いたことをまとめる。 10. メモの取り方について振り返る。 ＊インタビューをしながらメモを取ってみて、自分がわかったことや思ったこと、考えたことを伝えるようにする。 <ふり返ろう> 11. 東野さんたちのメモの工夫を踏まえて、更によくなるように考える。 12. 東野さんたちのメモの工夫を踏まえて、これからメモを取るときに、大切にしたいと思うことや実践してみたいことについて話し合う。 ＊日常生活においても大事なことを落とさないように工夫してメモを取りながら聞くことができるように意欲つける。	
三 伝わりやすい組み立てを考えて書こう リーフレットでほうこく 教科書:P58 ■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え、見学したことや調べたことを報告する。 ★ここが大事: 組み立てをくふうする ★学習用語: 課題／リーフレット／組み立て／資料／説明／効果的に伝える／読み返す／出典／引用／見出し	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読み、何を誰に報告するのかを考え、学習活動の見通しをもつ。 ＊相手意識や、目的意識をしっかりともたせる。 ＊学習の流れを確認し、見通しをもって活動できるようにする。 <決めよう・集めよう> 2. 課題を見つけ、伝えたいことを決める。 (1)自分が調べたい課題を見つける。 ＊学校図書館や各種資料をもとに取材活動を行う。 ＊社会科の教科書や資料などをもとに、疑問に思ったことなどから課題が設定できるようにする。 ＊教師が教えるのではなく、児童が発見できるようにする。 (2)見学してきたことをもとに、伝えたいことを決める。 ＊それぞれの見学メモが一覧できるようにし、見学前に考えていた課題と見学してわかったことが比較できるようにする。 ＊見学してさらに疑問に感じたことなども調べ、メモに書く。 ＊何を伝えたいか(リーフレットに書きたいか)を決める際には、読む人が誰かを意識させるよい。 <組み立てよう> 3. リーフレットの組み立てを考える。 (1)メモの中から取り上げたい項目を選ぶ。 ＊見学メモや調べたことメモの中から、特に伝えたいことを探す。P60のように、メモに「くふう①」と番号をつけるなど、メモに直接書き込みながら、取り上げる要素を考えさせる。 (2)伝えたいことが明確になるような構成・配置を考える。 ＊P61上段のような下書き用紙を使い、リーフレットの構成を考える。伝えたいことが明確になるような構成を児童に考えさせる。参考としてさまざまな構成(割り付け)例を提示するとよい。 ＊前から使っていたメモを直接下書き用紙に貼り、構成を考えるとよい。 (3)グラフや図、写真などを整理したり、それぞれの項目と関連づけたりする。 ＊引用資料やグラフ、出典を適切に用いるように指導する。その際、書く内容に対してどのような図やグラフがあるとわかりやすくなるか、客観的な資料を使うことで、どのような点が明確になるかをとおさしておくようにする。 <書こう> 4. リーフレットを作る。 下書き用紙と見比べ、必要なことが抜けていないかを確認する。 ＊特に、見出し、文末表現や敬体の表現について丁寧に指導する。 <読み返そう> 5. 読み返す。 ＊見出しやイラストの工夫などについてもあわせて指導したい。読む人を考えた工夫がなされているかについて、再度確認する。 ＊かぎの使い方、直し方などを確認する。 <伝え合おう> 6. 読み合う。 ＊学級で交流し、伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。 ＊完成したリーフレットは、想定した読み手に合わせた場所に展示できるとよい。 <ふり返ろう> 7. 伝わりやすい組み立てにするために、工夫したことを振り返る。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)イウ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B1)イ 【言語活動例】 ＊調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ＊積極的に、書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考え、学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動＊学習意欲	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
相手やもくてきに合わせて手紙を書こう いろいろな手紙 教科書:P64 ■手紙の書き方を知り、送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 ★学習用語：後付け／始めの挨拶／季節の言葉／自己紹介／結びの挨拶	1. 教材の学習の進め方を理解して見通しをもち、手紙を書くことに興味をもつ。 ＊3年時の学習『自分の気持ちを手紙に』を想起させ、その学習との違いを明確にする。 2. 封筒、はがき、電子メールのそれぞれの書式や目的の違いについて話し合う。 3. はがき、電子メールにおける手紙の構成を確認する。 ＊川上さんの手紙を読みながら、案内のはがきの構成を板書で確認する(P64の注記と対比しながら、構成を確認する)。 ＊島崎さんの手紙を読みながら、電子メールの構成を板書で確認する(P65の注記と対比しながら、構成を確認する)。 4. 誰にどのような案内やお願いをするのかを考えながら、手紙に書く事柄を決める。 ＊社会科の学習や総合的な学習の時間の活動など、学級の実態に合わせて相手や依頼の目的を設定するとよい。 5. 構成を考えながら案内の手紙またはお願いの手紙の文章を書いたり、まちがいがなければ読み直したりする。 ＊季節の言葉は、子どもたちが自分で考えてもよいし、「手紙の書き方」などの類書から、教師が児童の実態に合ったものをいくつか用意しておいてもよい。 ＊時間があれば、お互いの手紙を読み合う。 6. はがきや電子メールの特徴を踏まえて、相手や目的に合った手紙を書くために、どのようなことに気をつけたか振り返る。	【知識・技能】 ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア 【言語活動例】 ・行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。(B2)イ 【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認、学習の見通しをもって、送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書くこととしている。
言葉の文化① 短歌の世界 教科書:P66 △短歌を声に出して読み、言葉のリズムにふれる。 ★学習用語：短歌	1. P66・67を読んで、学習のめあてをつかむ。 ＊短歌の特徴をつかみ、短歌を読み、リズムを感じたり、情景をイメージしたりすることをおさえる。 2. 短歌の特徴を知る。 ＊P66の持統天皇の歌をもとに、音数を確かめる。 3. 解説を読みながら、それぞれの短歌の描き出す情景や心情を想像して音読する。 ＊写真などを手がかりにしながら、どんな情景や心情が描かれているのかを頭の中に思い浮かべさせる。 ＊リズムや響きを感じ取ることを大事にしたい。 ＊音読しての感想を自由に言わせてもよい。 4. 好きな短歌を選んで、書き写したり、感想を書いたりする。 ＊リズムを意識しながら、何度も声に出して読ませる。また、気に入った短歌を選んで、ノートに書き、友達どうして交流させる。	【知識・技能】 ◎短歌の特徴をつかみ、短歌を読み、リズムを感じたり、情景をイメージしたりすることをおさえる。(3)ア 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・すすんで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし、学習の見通しをもって、言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
漢字の広場② 漢字の音を表す部分 教科書:P72 △形声文字における部首と音符について知り、漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 ★学習用語：音／部首／音訓索引	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊漢字の音を表す部分について知り、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 2. 「持・時」「飯・板」に共通している部分がそれぞれ何を表しているか考える。 ＊全ての漢字に「音を表す部分」があるわけではない。ここでは、漢字の中には「音を表す部分」をもつものがあることに着目できればよい。なお、「形声文字」の語は五下で学ぶ。 3. 例示する漢字の部首と音を表す部分が、それぞれ、「へん」や「つくり」など構成要素のどの位置にあるかを確かめ、話し合う。 ＊部首と同様に、音を表す部分が、偏旁冠脚のさまざまな位置にあることがわかればよい。 4. P73の上段の設問を解き、音を表す部分への関心を深める。 ＊提示の文を各自で音読する。 ＊この学習を通して、未習の漢字でも、音を表す部分を手がかりに、経験的に読み方を推測できるように役立てればよい。 5. 漢字辞典の音訓索引を使い、音を表す部分を共通にもつ漢字の仲間を探し、ノートにまとめ、発表し合う。 ＊調べた漢字を使う熟語を集めたり、短文を作ったりするとよい。 (例)「体育館の前で水道管の工事が始まりました。」 ＊漢字辞典や巻末の『漢字を学ぼう』などを活用して調べる活動を十分に取り入れ、興味・関心を喚起できるようにする。 6. 音を表す部分の中には、文字によって音が違うものがあることを知る。 ＊「主・注・注・柱」など、例示の漢字を使う熟語を探したり、短文を作ったりして、それぞれの読み方を声に出して確かめるとよい。 (例)「主」…「主語・住所・注意・電柱」 (例)「豆」…「短期間だったが、登校の列の先頭を歩いた。」	【知識・技能】 ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ 【態度】 ・すすんで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し、学習課題にそって、「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。
都道府県名に用いる漢字 教科書:P74 △都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 ★学習用語：都道府県	5. 都道府県名に用いる漢字について学ぶ。 ＊社会科における都道府県の名称と位置についての学習と関連づけて指導する。なお、社会科と関連づけて、指導する時期や内容を意図的・計画的に位置づけるようにする。 ＊都道府県について知っていることを発表する。 ＊47ある都道府県名の読み方を確認し、覚える。 ＊新出漢字の書き方を学ぶ。 6. 都道府県名を使って文を作り、発表し合う。 ＊正しく漢字が使われているかを確認し合う。 ＊互いの文のよいところを発表し合うようにする。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
三年生で学んだ漢字② 教科書:P76 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P76の絵を拡大して黒板に貼っておく、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたこと、言葉からわかる病院の中の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊描かれている人物や行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 ＊自分が書くこととしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 9. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかどうかを確認し合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 10. 学習を振り返る。 ＊送り仮名の使い方や都道府県名に用いる漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B2)ウ 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。

單元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
四 落語を声に出して楽しもう 落語 ぞろぞろ 教科書:P78 □落語を読んで見つけたおもしろさが伝わるように、音読したり演じたりして楽しむ。 ★ここが大事: 読み方をくふうする ★学習用語: 噺家／落語／落語家／話芸／聞き手／繰り返し／せりふ／言葉づかい／音読記号／間／話し手／話し言葉	<見通しをもとう> 1. 学習の見通しをもつ。 *(1)單元扉とP78を読み、伝統芸能「落語」について知る。 *「話芸」、「落語家(噺家)」、「落ち」などの言葉と意味を知り、落語に対する興味を高める。 (2)落語『ぞろぞろ』の音声を聴いて／映像を見て、友達と感想を伝え合う。 *できるだけ実際の落語を見せるなどして、落語のおもしろさにふれることを大事にする。 <たしかめよう> 2. 話の全体をつかむ。 (1)落語の特徴の一つである「繰り返し」に着目する。 *繰り返しの効果を考えながら声に出して読むようにする。 (2)場面の様子や登場人物のやりとりを想像して読む。 *登場人物のやり取りを具体的に想像して、せりふの言い方などをイメージする。 <くわしくよもう> 3. 場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、おもしろいところを見つける。 (1)茶店のじいさんの「お福荷さんのご利益」に対する考え方は、落語のはじめと終わりでのように変わったかを考える。 (2)茶店のじいさんのせりふと、床屋の親方のせりふを手がかりに、二人がそれぞれどのような様子や気持ちなのかを想像する。 <まとめよう> 4. おもしろいと思ったところについて、なぜそう思ったのか、自分なりの理由を考える。 *落ち、言葉のくり返し、話の構成、話し方など、おもしろいと思った理由を具体的に示せるようにする。 *音読したり、演じたりするときに、いちばん盛り上げたいところは何どの場面かを考えさせ、自分が演じてみたい場面や人物にしほって練習や発表をするようにつなげていく。 <つたえあおう> 5. みつけたおもしろいところが伝わるように、音読したり落語のように演じたりする。 (1)おもしろいところが伝わるように、工夫して音読したり、演じたりする。 *読むときどのような工夫ができそうか、実際の落語を見たり聞いたりして、噺家の話し方のおもしろいところや上手だと思ったことを話し合わせるとよい。 *P93の音読記号や読むときの気持ちを書きこんだ音読台本を作って、読み方の工夫を具体化する方法もある。 *P94「言葉」とP95「ここが大事」を確認し、顔の向きや登場人物に応じて話し方を変えるなどの工夫をする。 (2)友達が工夫しているところを見つけ、感想を伝え合う。 <ふり返ろう> 6. おもしろいと思ったところを伝え合った活動を振り返り、感想をノートに書く。 *読み方を工夫するときに気づけたことを振り返る。 *P95「本を読む」の落語の本を紹介し、興味関心を深める。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(11イ) ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(11ウ) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C11イ) ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C11エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C11ホ) ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C11カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C12イ) 【態度】 ・すすんで場面の様子や登場人物の気持ちを具体的に想像して読み、おもしろいと思ったところを伝え合い、今までの学習を生かして落語を音読したり演じたりして楽しもうとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動＊学習重点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
読書の広場② ひろがる読書の世界 教科書:P96 △「本について語り合う」、「同じ作者の本を読む」という学習活動を通して、幅広く読書に親しむ。	1. 「本について語り合う」、「同じ作者の本を読む」という学習内容を捉え、学習の見通しをもつ。 2. 学校の図書室や地域の図書館などで、興味のある本を借りて、本について語り合ったり、今まで読んできた本を「読書しれき」などを活用して振り返り、印象に残っている本を書いた作者の別の作品を読んでみたりする。 ＊夏休みの宿題との関連などが考えられる。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ⑨幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(③才) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(①1)力) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(①2)イ) 【態度】 ・読書生活を振り返り、読みたい本を選んだり、これからの読書生活を考えたりしている。
五 話の組み立てを考えて発表しよう 写真から読み取る 教科書:P98 ◇伝えたいことをはっきりさせて、理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 ★ここが大事：写真から読み取ったことを話す	<見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、話の組み立てを考えて発表するというめあてについて確認し、学習計画を立てる。 <決めよう・集めよう> 2. 話すための写真を選ぶ。 ＊p.98・99の4枚の写真を見て、写っているもの、写真の撮り方の特徴を話し合って整理する。 <組み立てよう> 3. 読み取ったことを整理し、組み立てを考える。 (1) p.100を参考に読み取れることをメモにまとめ、組み立てを考える。 ＊写真を見て気づいたことや想像したことメモにまとめる。 ＊メモをもとに、話す構成を考える。 ＊北原さんの発表を参考にし、話す練習をする。 ＊グループで聞き合い、感想や意見を交流する。 <話そう・聞こう> 4. 発表する。 (1) メモをもとに写真を見せながら発表する。 ＊教科書の写真を使って発表だけでなく、自分で撮影した写真や、探してきた写真をもとにして話す活動も取り入れる。その際も同様の流れを踏まえる。 ＊写真を決める。 ＊写真から読み取ったことをメモにまとめる。 ＊メモをもとに話す構成を考える。 ＊発表し合う。 <伝え合おう> 5. 感想を伝え合う。 (1) 自分や友達の記事を振り返る。 ＊写真のどの部分からそう考えたのか、相手にわかるように発表することができたか、人によっていろいろな見方や考え方があったことがわかったかどうか確かめる。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ⑨考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(②ア) 【思考・判断・表現】 ⑨「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A1)イ) 【言語活動例】 ・説明や報告など調べたことを話したり、それらを聞いたりする活動。(A2)ア) 【態度】 ・粘り強く、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え、学習の見直しをもって、写真から読み取ったことを話そうとしている。
六 集めたざいりょうでわかりやすく伝えよう 作ろう学級新聞 教科書:P102 ■割り付けを工夫して、わかりやすい紙面の新聞を作る。 ★ここが大事：新聞で伝える ☆学習用語：新聞／見出し／題名／発行日／発行者／トップ記事／割り付け／清書／下書き／読み返す	<見通しをもとう> 1. 新聞の作り方を読んで作り方の流れを知り、学習の見通しをもつ。 (1)教科書の新聞例から、どんな工夫をしているか話し合う。 ＊一般紙や子ども新聞と比較する。できればとも新聞のほうを読みやすい。 ＊新聞をもっていない家庭もあるので学校で準備するとよい。 (2)教科書の新聞の作り方を読んで、活動の流れを確認する。 ＊割り付け、トップ記事、題名、見出しなど、新聞を書くうえで必要な事項を確認する。 ＊情報の重要度によって、記事の大きさや位置を工夫していることを確認する。 ＊写真や図表の効果について確認する。 <決めよう・集めよう> 2. 知らなたいことを決め、調べる。 (1)記事を書くために取材をする。 ＊相手や目的に応じて何を書くのかを考えさせる。 ＊相手に応じて取材する内容を考えさせる。 <組み立てよう> 3. 記事の割り付けを考える。 ＊新聞の内容、目的に合わせて、トップ記事を決めさせる。 ＊誰がどの記事を書くかの分担を決めさせる。 ＊伝えたいことの中心を決めて、簡潔に一文を短くして書くよう指導する。 ＊記事の順番や大きさなどの違い、また、どんな写真を選ぶかなどによって、読み手に与える印象が変わってくるなどについても意識させる。(メディア学習の観点) <書こう> 4. 記事の下書きをする。 ＊伝えたいことの中心を決めて、簡潔に一文を短くして書くよう指導する。 <読み返そう> 5. 読み返して、清書する。 ＊書き方がわかりやすいかどうか、交流をさせるようにする。 ＊記事の見出しのつけ方やデザインの仕方によって印象が変わってくるなどについても理解できるようにしたい。(メディア学習の観点) <伝え合おう> 6. 新聞を読み合う。 ＊学級で交流し、伝えたいことがはっきり伝わるように書かれているか、意見を述べ合う。 ＊国語の授業や他教科等の学習に生かすようにする。 <ふり返ろう> 7. どのところを工夫して、資料を集めたり、新聞を作ったりしたか振り返る。	【知識・技能】 ⑨漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ) ⑨考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(②ア) 【思考・判断・表現】 ⑨「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B1)ア) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア) 【態度】 ・粘り強くまちがいを正したり文章を整えたりし、学習の見直しをもって新聞を作ろうとしている。
漢字の広場③ 送りがなのつけ方 教科書:P106 △送り仮名は、漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し、漢字を正しく使う。 ☆学習用語：送り仮名	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊送り仮名のつけ方について理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意図づける。 ＊三上「漢字の広場③」送りがなで学んだ内容の定着状況を把握しておく。 2. 言い方によって形が変わる言葉の送り仮名を考える。 ＊「ふっつうの言い方」でない言い方「動作を打ち消す言い方」「動作がすんだことを表す言い方」などの観点をもとに、送り仮名の違いを考える。 ＊動詞として使われる漢字について、活用によって送り仮名がどう変わるのかを具体的に考え、的確に読み書きできるようにしていきたい。 3. 送り仮名に着目し、常体を敬体に変えて、話し合う。 ＊それぞれの語を使い短文を作り、比較するとよい。 (例)わたしは、きのう、本を読まなかつた。 わたしは、きのう、本を読みませんでした。 ＊活用語尾を送るという送り仮名の原則的なつけ方についての理解を深め、活用についての意識がもてるようになる。	【知識・技能】 ⑨漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ) 【態度】 ・すすんで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字を正しく使うようとしている。

單元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
	4. P107の上段の設問を解き、例文を常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などにそれぞれ書きかえ、送り仮名を確認する。 ＊常体と敬体、肯定と否定、現在形と過去形などの別に基づく動詞の語形変化の法則性を経験的に理解できるようにする。 5. 訓読みが複数ある漢字について、送り仮名によって読み方と意味を使い分けることについて習熟を図る。 ＊今後の新出漢字の学習で、送り仮名がつかうものについては、送り仮名に注意して書くことができるよう、この教材で意識化できるようにしておく。 6. 動詞として使われる漢字を集め、活用によって送り仮名がどう変わるかを調べ、発表する。 ＊発表に際しては、意味の通る短い文で書き表すようはたらきかけたい。	
三年生で学んだ漢字③ 教科書:P108 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P108の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる教室の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊席の近くの友達と、クラスの友達の良いところについて、話し合うとよい。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊自分が書こうとしていることが、はっきりわかるよう書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊条件をつけて文や文章を書くように促すと、記述の仕方に工夫が見られるようになる。 9. 表現を改めたり、書きまちがいを正したりして、書いた文を発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ＊互いの文や文章の良いところを発表し合うようにする。 10. 学習を振り返る。 ＊漢字の音を表す部分について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【言語活動例】 ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。

単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
七 場面の様子をくらべて読み、感想をまとめよう 一つの花 教科書:P110 □場面の様子を比べて読み、感想を伝え合う。 ★ここが大事: 文章中の大切な言葉について考える ★学習用語: 物語／場面／感想文／題名／比べる／登場人物／あらすじ／戦争の時代を表す言葉・文	＜見通しをもとう＞ 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊場面の様子を比べながら人物の思いを想像して読み、物語の感想文を書くという単元の見通しをもたせる。 ＜たしかめよう＞ 2. 場面の様子を大きく捉え、物語の全体像をつかむ。 (1)「一つの花」という題名から、どのようなことを想像したか、友達と話し合う。 ＊既に本文を読んでいる、内容を知っている児童が多い場合は、「一つ」という言葉を意識化させて、その印象を話し合わせてもよい。 (2)この物語がどのようなお話なのか、次のことに注意しながら、確かめる。 ●どのような人物が出てくる物語か。(登場人物) ●いつの時代の物語か。(時代背景) ●どのようなできごとが起きたか。(あらすじ) (3)初発の感想をまとめる。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。((1)才) ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思考・判断・表現】 ○「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。((1)エ) ◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。((1)才) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。((2)イ) 【態度】 ・すすんで場面の様子を比べて読み、大切な言葉から作品に込められたメッセージや作者の思いを積極的に想像し、今までの学習を生かし、自分の考えたことや感想を感想文に書いて、伝え合おうとしている。
	＜くわしくよう＞ 3. 戦争中と十年後の場面を比べながら、ゆみ子の様子や、お父さんとお母さんの思いを読み、文章中に繰り返し出てくる「一つ」という言葉の意味を考え、話し合う。 (1)戦争中と十年後の場面を、次のような観点で比べて、表などに整理し、考えたことを話し合う。 ●お父さんとお母さん ●ゆみ子 ●ゆみ子の家 ●その他(食べ物など) ＊教科書に示されている観点の他に、子どもたちから出てきた観点も適宜取り上げる。 ＊「ゆみ子のしたこと」や「お父さん・お母さんのしたこと」は、本文中から具体的に(要約して)引用する。 (2)題名「一つの花」と文章中に繰り返し出てくる「一つ」という言葉が、それぞれどのような意味で使われているのか考え、話し合う。 ＊思いつきや感想ではなく、前時までの学習を踏まえて、根拠をはっきりさせながら考えを発表し合う。 ＊戦争中の場面では「一つ」「一つだけ～」などの言葉が頻出している。一方、十年後の場面では、「一つ」という言葉は出てこず、「いっぱい」「お話しているかよう～」やお肉とお魚と、どっち～となっている。「戦争中」と「戦後」を比べることを通して、「一つ」の意味を考える。 ＊「願いや気持ち」は、はっきりした記述がない。本文中から離れすぎずとはいけなが、読み手の推測が入った記述になってもよいこととする。	
	＜まとめよう＞ 4. 題名「一つの花」と、文章中に出てくる「一つ」という言葉の意味について考えたことがわかるように、心に残った場面やできごとをはっきりさせて、物語の感想文を書く。 ＊P121に感想文の書き方の例がある。内容を一、二点にしぼり、特に心に残った場面やできごとについて書くようにする。 ＊「ここが大事」を確認し、題名や文章中で繰り返し出てくる言葉に着目して作品に込められたメッセージや作者の思いについて考え、自分の感想や考えがわかるように書くようにする。	
	＜つたえあおう＞ 5. 書いた感想文を友達と読み合う。 ＜ふり返ろう＞ 6. 学習を振り返る。 (1)詳しく読む前と読んだ後で、物語に対する感じ方がどのように変わったか振り返る。 ＊初発の感想と読み深めた後の感想の違いを意識させる。 (2)感想文を書くときに気づけたことはどんなことか振り返る。 ＊伝える相手は友達である。互いに物語の内容を知っているという前提で、自分の思いや考えがわかるように書くことが大切であると意識させる。	
言葉の広場② 修飾語 教科書:P124 △文の中での修飾語のはたらきを理解する。 ★学習用語: 修飾語／主語／述語	1. 冒頭の会話文を通して、修飾語のはたらきの違いに気づく。 ＊冒頭の会話文から、二人の感心していることが違うと受け取れるのは、文のどの部分が異なっているからか発表させる。 ＊修飾語が異なることに関心をもち、文意の違いを考えさせる。 2. 教材文を読み、修飾語とは何か、どのようなはたらきの言葉かを理解する。 前半年の学習では、内容を詳しくするという修飾語のはたらきを学んだが、ここでは何を詳しくするのかによって修飾語が分類できることを理解させる。 3. 設問に取り組み、修飾語を見つけたら、修飾語の種類を見分けたりする。 ＊上段の問題では、「どんな」「どのように」「何を」などを指標にしながら修飾語を正しく抜き出させるようにする。 ＊下段の問題では、各修飾語が直後の(体言を含む)文節に係るのか、文末の(用言を含む)文節に係るのか見分けるとともに、それが「どんな」「どのように」にあたるのか、「どのよう」にあたるのか考えさせる。 4. 学習を振り返る。 ＊教科書の説明を読んで、複数の文節がまとまって一つの修飾語になることもあるということを確認しておくといよい。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【態度】 ・すすんで修飾と被修飾との関係について理解し、学習の見直しをもって、修飾語を見つけたら、修飾語の種類を見分けたらしようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価標準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
八 自由想像を広げて書くこう 作ろう！「ショートショート」 教科書：P126 ■不思議な言葉を作り、想像を広げて「ショートショート」を書く。 ★ここが大事：不思議な物語を作る ★学習用語：ショートショート／物語／中心人物／登場人物／場面／始め／中／終わり	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読み、学習の見通しをもつ。 ＊学習の流れを知り、単元のゴールを明確にする。児童に「書きたい」という気持ちが生まれるよう言葉がけをする。 ＊巻末付録「モン自転車」を読み、「ショートショート」とはどんなお話か、どんなおもしろさがあるかを確認する。 <決めよう・集めよう> 2. 組み合わせを工夫して不思議な言葉を作り、想像を広げる。 (1)いろいろなものの名前などを十個探して書く。 ＊まずは思いつく名詞を十個ワークシートに書かせる。書く名詞に関連性や規則性をもたせる必要はない。自由に楽しんで書かせる。 (2)言葉の一つを選び、その言葉から思いつくことを自由に書く。 ＊名詞の中から一つ選び、思いつくことを自由に書く。書く言葉に制限などは設けず、自由な発想を大事にして書かせる。 (3)言葉を組み合わせて、不思議な言葉を作る。 ＊不思議な言葉が完成したら、そのものの絵を描かせて、更に想像を膨らませるとよい。 (4)不思議な言葉から想像を広げる。 ＊一人で考えるだけでなく、二人組やグループでの活動をクラスの実態に応じて取り入れる。友達の見聞を聞くことで、発想が更に広がることも期待できる。 ＊ワークシートに欄はないが、「よいこと」「悪いこと」以外に思いついたことも書かせてもよい。 <組み立てよう> 3. 設定や物語の展開を考える。 ＊ワークシートにそって「中心人物」「登場人物」「いつ」「どこで」「どんなことか」など、場面設定や展開を考えさせる。これまで学習してきた教科書教材を教師が例として板書してもよい。 ＊ワークシートの設問「それから？」にそって展開を考えさせる。また、前時のワークシートを見直しながら、結末を決める。友達とヒントを出し合いながら考えさせてもよい。 <書こう> 4. 想像を広げながら、「ショートショート」を書く。 ＊話のまとまりを意識させる。 ＊文章量はクラスの実態によるが、「ショートショート」であるということを踏まえ、400字程度にするとよい。クラスの様子や児童の実態に合わせて、字数は増減させる。 ＊時間があれば、挿絵を描かせてもよい。 <読みかえそう> 5. 読み返す。 ＊場面の様子や会話文、心の声を書きたすように促す。 ＊場面ごとに段落をええるなど、段落を意識させる。 <伝え合おう> 6. 友達と読み合い、感想を伝え合う。 ＊交流し、友達の作品の内容面・記述面、両方で感想を言わせる。 ＊コメントカード、本の帯などクラスの様子に合わせて活用して、交流させる。 ＊交流の観点(不思議な言葉のアイデアや結末のおもしろさ・会話文や登場人物の心情の表現など)を決めて交流させるとよい。 ＊例えば、完成作品は、2週間程度学校図書館に置き、異学年の児童が読めるようにする。その際、感想カードを記入してもらうようにすることで児童の意欲も向上する。 <ふり返ろう> 7. 想像を広げるために、どんなことを工夫したか振り返る。 ＊振り返りでは「何を学んだのか」「どこを工夫すると、よりよい作品ができたのか」などについて、学習過程を振り返るようにする。	【知識・技能】 ⑥漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)(ウ) 【思考・判断・表現】 ⑨「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)(ア) 【言語活動例】 ＊詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ＊積極的に、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりし、学習の見通しをもって「ショートショート」を書くこととしている。
言葉の文化② 「月」のつく言葉 教科書：P132 △昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り、「月」に関係する言葉を集める。 ★学習用語：月のつく言葉／国語辞典／漢字	1. 教材文を読み、「月」の呼称について知る。 ＊教科書の写真や理科図鑑などを活用して、さまざまな「月」の呼称について知らせる。 2. 教材文末の言葉について国語辞典などを調べたり、さらに「月」に関わるさまざまな言葉や表現を調べてノートに書き、友達と交流する。 ＊辞典を利用して調べの方法を身につけさせる。また、その結果を、互いに交流させる。	【知識・技能】 ⑨長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)(イ) 【思考・判断・表現】 ⑨「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)(ア) 【言語活動例】 ＊調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B)(2)(ア) 【態度】 ＊すすんで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ、学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。
国語の学習 つながる ひろがる 教科書：P134 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	1. 半年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 ＊上巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようになる。 ＊挿絵やふただし、「四年生で学ぶこと」を参照する。 ＊楽しかったことを中心に思い出させる。 ＊心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的に書き、発表し合う。 ＊友達の発表を共感して聞き、交流し、学んできたことを共有できるようにする。 2. 1で出したことが、他教科や生活の中で、どんなことに生かしていけるか考える。 ＊国語の学習がさまざまな場面で生かされることに気づけるようにする。	【知識・技能】 ⑨相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)(イ) 【思考・判断・表現】 ⑨「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A)(1)(ウ) ⑨「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B)(1)(ウ) 【態度】 ＊すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、これまでの学習を生かして、上巻の教科書での国語の学習を振り返ったり下巻の教科書での国語の学習への希望を話し合ったりしようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
一 登場人物の気持ちの変化を考えて、日記を書こう ごんぎつね 教科書:P8 □登場人物「ごん」の気持ちを詳しく想像して読み、気持ちの変化がわかるように「ごん日記」を書く。 ★ここが大事: 情景を読む ☆学習用語: 物語／気持ち／場面／始め／日記／題名／言葉／説明する／登場人物／中心人物／情景／情景描写／二つの言葉が組み合わさってきた言葉	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊単元扉にある「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」に着目させ、想像したことを発表させる。 ＊作品との出会いは、教師の範読などでもよい。 ＊初発の感想を簡単に書かせておくよい。 <つたしかめよう> 2. 登場人物を確認し、作品の全体像を捉える。 (1)「1」の場面を読んで登場人物を確認し、ごんと兵十がそれぞれどのような人物か考え、話し合う。 ＊物語では、冒頭場面で登場人物が紹介されていることが多い。それぞれどのような人物として紹介されているかを丁寧に読み取ることが、後の深い読みにつながる。 (2)始めと終わりの場面を比べて、ごんと兵十の関係がどのように変わっているかを考え、ノートにまとめて紹介し合う。 ＊中心人物の一人であるごんに着目し、その様子や気持ちの変化を大きく捉えさせる。 <くわしくみよう> 3. ごんの気持ちの移り変わりを読む。 (1)ごんの気持ちがわかる表現をノートに書き出し、気持ちの移り変わりを話し合う。 ＊「ここが大事」を読んで、情景描写の中には、人物の気持ちが想像できるようなものがあることを確認し、ごんの気持ちが具体的に想像できる情景描写がないか気をつけて読む。 ＊ごんが慣い始めたきつかけを考える。 (2)もう一人の中心人物である兵十のごんに対する気持ちを考える。 (3)ごんと兵十の関係の変化を読む。 ＊最初に、文章中の表現からごんの気持ちの移り変わりを捉え、それに対して兵十がどのように思っているかを考えさせる。ごんの気持ちの変化を、兵十との関係の変化と結びつけて考えさせる。 ＊ごんの気持ちは兵十に近づいているが、それに対して兵十のごんに対する思いは、ごんを撃つまで変わっていないことに気づかせる。 <まとめよう> 4. もしもごんが日記を書いていたら、どのような日記になるかを想像して、「ごん日記」を書く。 ＊作品全体を読み直して、ごんの気持ちの変化を見直すよい。日記の内容が、作品に対する主題の捉えにつながっていく。 ＊てびき下段にある日記の例を参考にし、ごんと兵十の関係がわかるように書く。 <つたえあおう> 5. 日記を見せ合って、感想を伝え合う。 ＊書いた日記を見せ合うと、それぞれが「ごんぎつね」という物語をどのように読み、受け止めたのかがわかってくる。共通点や相違点を考えながら日記を見せ合わせるようにする。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の変化を考えると、どのようなことに気づけたか振り返る。 (2)日記を書くときに、どのようなことに気づけたか振り返る。 ＊今までの学習を振り返るには、まとめたノートやワークシートなどを見直すとともに、自分の書いた日記をもとに、物語をどのように受け止めたかを改めて考えさせるようにする。	【知識・技能】 ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(C11才) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C11エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C11才) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C12-I) 【態度】 ・すすんで、登場人物の気持ちの変化や情景について場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し、学習課題にそって登場人物になりきって、気持ちの変化がわかるように日記を書くこととしている。
読書の広場③ 「読書発表会」をしよう 教科書:P30 △紹介したい本を何冊か選び、「読書発表会」を行い、読書の幅を広げる。 ☆学習用語: 組み立て／ブックトーク／物語／記録／題名／あらすじ／読書発表会	1. 「読書発表会」でテーマにそって本を紹介するという学習内容をつかみ、学習の見通しをもつ。 2. 紹介したい本を選び、「読書発表会」の準備をする。 (1) 発表のテーマにそった本を集める。 (2) 紹介する本の順番を決め、組み立てメモをもとに、発表内容を考える。 (3) 発表の原稿を作成する。 3. 「読書発表会」をする。 4. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(C3才) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(C11カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C12-I) ・学校図書館などを利用し、事典や図鑑などから情報を得て、分かったことなどをまとめて説明する活動。(C12-ウ) 【態度】 ・ブックトークに向けて、すすんで本を集めたり発表内容を考えたりし、粘り強く活動に取り組んでいる。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／★留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
言葉の広場③ 言葉が表す感じ、言葉から受ける感じ 教科書:P34 △言葉や音が表すイメージや、イメージに即した言葉を考えてりすることによって、言葉の特性について考える。	1. 「言葉」について学ぶという学習内容を理解して、学習の見通しをもつ。 ★言葉や音が表す感じや言葉から受ける感じについて考えたり、言葉を作ったりすることを通して、言葉の特性について理解するという学習の見通しをもたせる。 2. 大や身近なものを表す名前などをとくに、言葉から受けるイメージについて考えて、話し合う。 ★「チロ」という言葉から受けるイメージについて考え、また、なぜそのようなイメージが生じるのかについて考える。 ★言葉から受けるイメージが、誰でも共通のことなのかどうかなどについて確かめる。 3. 擬声(音)語や擬態語をもとに、音とイメージの関係について考える。 ★それぞれの擬声(音)語・擬態語によってどのような感じ方の違いが生じるかを確かめさせる。 ★清音と濁音・半濁音の感じ方の違いにも気づかせる。 4. 「強そうな名前」「はじける感じ」など、言葉(音声)と感覚の結びつきについて考え、話し合う。 ★形や大きさ・色・硬さなど、具体的に想定することが前提になる。自由に発想させる。 5. 自分でお菓子の名前を考えて、意味や気持ちなどが共有できるかどうか確かめる。 ★想定したお菓子のどのような性質・特徴を表した名前なのかを認識させる。 6. 意味や気持ちを伝えられる言葉とそうでないものについて考え、言葉の特性について理解する。 ★自分で考えたイメージを表す名前が、他者に通じるもののか考えたり、どうしたら通じるようになるのか考えたりすることが大切である。 7. 学習を振り返る。 ★言葉の性質やおもしろさ、他者とイメージを共有させることのおもしろさ、また共有できないときの難しさなどを意識させる。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。(A1)イ) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A2)ウ) 【態度】 ・すすんで、言葉には考えたことや思ったことを表すはたらきがあることに気づこうとし、学習課題にそって、言葉がもつイメージについて考えようとしている。
二 役わりに気をつけて話し合う みんなが楽しめる新スポーツ 教科書:P38 ◇司会者や発言者などの役割を果たしながら、話し合いの進行に合わせ、互いの考えを伝え合って話し合う。 ★ここが大事: 役わりに気をつけて話し合う ☆学習用語: 役割／司会／記録係／質問／意見／課題／発言者／提案者／話し合い／メモ／賛成／共通点／反対／説明／理由	<見通しをもとう> 1. 単元名やリード文を読み、役割を決めたり、進行に従って話したりする方法について話し合い、学習の見通しをもつ。 (1)これまでのクラスの話し合いを振り返る。 (2)これまでにどんなことを話し合ったか話し合う。 <決めよう・集めよう> 2. 誰とどんな新スポーツをやりたいかを考え、クラスで話し合う新スポーツについて決める。 <組み立てよう> 3. 役割を決め、進行について打ち合わせをする。 (1)これまでの話し合いの仕方や結果などのよかった点・問題点などを話し合う。 (2)それぞれの役割は何をするのか確認する。 ★時間配分を確認し、教科書の「進行」と「話し合い例」をもとに、自分たちのクラス用の簡単な台本を作成する。 ★台本をもとにロールプレイを行う。 <話そう・聞こう>(重点) 4. 役割に気をつけて、クラスで話し合う。 (1)教科書を読み、P40～42の例をもとに学習の流れをつかむ。 (2)新ゲームを決める話し合い(1回め)を行う。 5. 話し合いを振り返る。 (1)P40～42の話し合いをもう一度読み、どこがよいのか発表し、役割ごとの留意点を確認する。 (2)話し合い(2回め)を行い、振り返りをして、次の準備を行う。 (3)話し合い(3回め)を行い、振り返りをする。 <伝え合おう> (4)自分たちの話し合いについて気になる点に注意できたか、友達の見解と自分の意見をつないだり、比べたりして話し合えたか、ノートに書いて発表し合う。 <ふり返ろう> 6. 今後のクラスでの話し合いについて考える。	【知識・技能】 ◎考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A1)オ) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A2)ウ) 【態度】 ・積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。
漢字の広場④ いろいろな意味を表す漢字 教科書:P44 △一つの漢字には、複数の意味がある場合が多いことを理解する。	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ★いろいろな意味を表す漢字について理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 2. 「手」という漢字がもつ複数の意味について考える。 ★「行く手」「手作り」など例示の語を使って短文を作り、具体的に考えさせる。 3. 「手」の五つの意味別に、語句を集め、話し合う。 ★「手」の漢字を中心にして、構成される語句を意味ごとにつないでいくマップにまとめてもよい。 4. 選択肢のそれぞれの言葉の意味を考え、「本」「原」「名」という漢字がもつ複数の意味と比べる。 ★漢字を中心に、その漢字から構成される語句を意味ごとにつないでいくようなマップにまとめてもよい。 5. 漢字辞典を使って、「長」「家」「礼」「親」「運」がもつ複数の意味を調べる。 ★漢字の意味と、熟語や複合語などの語句の意味とを関連させて考える習慣を身につけられるようにしたい。 6. 漢字辞典を使って、これまでに学習した漢字がもつ複数の意味を整理し、意味別に熟語を集め、ノートにまとめる。 ★漢字辞典を活用して調べる活動を取り入れ、漢字の意味と語句の意味との関連に興味をもてるようにしたい。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い、学習課題にそって、漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
三年生で学んだ漢字④ 教科書：P46 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	7. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P46の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄を児童たち全体に示しやすくなる。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 8. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊この校庭の様子がはっきりわかるよう、書き表し方を工夫するようはたらきかける。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊内容につながらぬ文を二つ以上書くようにすると、言葉を適切に使っているかどうかのわりやすくなる。 9. 作った文を互いに発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ＊表現を改めたり、書きまがいがいなどを正したりして、書いた文を発表する。 ＊互いの書いた文章を読み合ったり音読し合ったりして、その内容や表現について、感想や意見を述べ合い、自分の文章のよいところを見つけるようはたらきかける。 10. 学習を振り返る。 ＊いろいろな意味を表す漢字について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ④第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)(エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B)(1)(オ) 【言語活動例】 詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ＊積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くこととしている。
三 大事な言葉や文に気をつけて要約しよう ウミガメの命をつなぐ 教科書：P48 □ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列にそって読み、興味をもった点から整理して文章を要約する。 ★ここが大事：要約する ★学習用語：要約／事例	<見通しをもとう> 1. 題名や単元扉の2枚の写真を手がかりに、学習の見通しをもつ。 ＊2枚の写真やその説明から文章の内容を予想したり、単元名から学習の内容を確認したりして、学習の見通しをもたせる。 <たしかめよう> 2. 本文を読んで興味をもったことについてまとめ、友達と話し合う。 3. ウミガメの現状や名古屋港水族館の取り組みの概要について読み取る。 ＊はじめからP50L2までの内容を確認する。 4. 「ウミガメのさんらん研究」について読み取る。 ＊P50L3～P51L7までの内容を確認する。 5. 「子ガメを海に放流する研究」について読み取る。 ＊P51L8～P54L2までの内容を確認する。 6. 2011年からの水族館の取り組みについて読み取る。 ＊P54L4から最後まで文章を扱う。 <くわしくよう> 7. 興味をもったことを中心に、100～200字くらいに要約する。 ＊P56の「要約の仕方」やP59の「ここが大事『要約』」、P57の要約例を参考にまとめさせる。 <まとめよう> 8. 要約した文章も用いて、「ウミガメの命をつなぐ」を紹介する文章を書く。 ＊構成は、P57の例を参考にする。 <つたえあおう> 9. 紹介文を友達と読み合い、友達の文章と自分の文章を比べて、自分との違いやいいところを見つけて伝え合う。また、学習全体を振り返り、文章を要約するときのポイントや紹介文を書くときに大事なことをまとめる。 (1)紹介文を友達と読み合う。 (2)読み合って感じた、友達の文章と自分の文章の違いや、友達の文章のいいところを発表する。 <ふり返ろう> 10. 学習全体を振り返って、文章を要約するときのポイントや紹介文を書くときに大事なことをノートに書いてまとめる。	【知識・技能】 ④考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)(ア) ④比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)(イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B)(1)(イ) ④「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C)(1)(ウ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C)(1)(オ) 【言語活動例】 ＊調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B)(2)(ア) ＊記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C)(2)(ア) 【態度】 ＊すんで、本文を読んで自分が興味をもった部分を要約することを通して、学習課題にそって、本文をわかりやすく紹介する文章を書くこととしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
言葉の広場④ 二つのことがらをつなぐ言葉 教科書:P60 △二つの事柄をつなぐとき、使う言葉によって内容が大きく変わることを理解し、接続語のはたらきを意識して、正しく使い分ける。 ★学習用語：ことがら	1. 冒頭の問いを通して、二つの事柄をつなぐ言葉について興味をもつ。 ＊接続助詞が違うことでどのように文意が違ってくるか考えさせる。 2. 教科書を読み、二つの事柄をつなぐ言葉(接続詞や接続助詞)のはたらきを理解する。 ＊接続助詞によるつなぎ方の違いで、文意がどのように違ってくるか理解させる。 3. 接続助詞と接続詞の対応を考えながら1文を2文に分ける。 ＊接続助詞が表す意味を考えさせながら、対応する接続詞を選ばせる。 ＊1文を2文に分ける際、接続詞が適切な位置にきているか、各文の文末が言い切りの形になっているか確認させる。 4. 接続助詞の意味を考えながら、あとに続く文を考える。 ＊作成した文は発表させるなどして、不自然な点がないか確認するとともに、いくつか文が作れることに気づかせる。 5. つなぐ言葉に注意しながら2文を1文にする。 ＊接続助詞に対応する接続詞を考え、接続詞の位置、文末の形に気をつけながら文を作成させる。 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ 【態度】 ・すすんで接続する語句の役割について理解し、学習の見通しをもって、接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。
四 調べたことをわかりやすく書く クラスの「不思議ずかん」を作ろう 教科書:P62 ■図や写真などの資料を活用し、紙面を工夫して図鑑を作る。 ★ここが大事：わかりやすく書く ★学習用語：取材／組み立て／原稿／説明／読み返す／題名／資料／目次／言葉づかい／情報／著作権／メディア／新聞／インターネット／引用／意見／出典	<見通しをもとう> 1. 教科書の作品例を読み、筆者が工夫していることを確認する。 ＊題名の工夫・書き出しの工夫・写真や図表の工夫・「ひと言メッセージ」や「参考資料」を書き加えている等 ＊「学習の進め方」を読み、学習活動の見通しをもたせる。 <決めよう・集めよう> 2. 図鑑に載せるものを決め、調べる。 ＊気づいたことや疑問に思ったことをメモしたり、もっと詳しく知りたくなったことを図書館で調べたりするよう指導する。 (1)手のまわりの不思議を集め、書きたいことを選ぶ。 (2)題材について取材する。 ＊必要に応じて、デジタル機器(パソコン・タブレット端末・デジタルカメラ等)も活用させる。 ＊P67「じょうほうを集めて活用しよう」を参考に、目的に合った調べ方を学ばせる。 <組み立てよう> 3. 組み立て表を作り、グループで話し合う。 (1)できた組み立て表をグループの友達と交換して読み、意見を伝え合う。 ＊できた組み立て表を友達と見合いながら、書き手の目的や意図、伝えたい内容と表現の関係に注意して、わかりやすく伝えられているか意見を述べ合う場を設定する。 <書こう>(重点) 4. 図鑑の原稿を書く。 ＊必要に応じて図や写真などの資料を入れたり、資料と関連する表現を書かせたりする。 <読み返そう> 5. 原稿を読み返す。 <伝え合おう>(重点) 6. グループで発表し合う。 ＊読む人が興味をもって読めるような内容になっているか、伝えたいことがわかりやすく伝わるような表現になっているかどうか、などの観点で交流させる。 ＊表紙、目次などをつけて本の形にする。 <ふり返ろう> 7. 読む人にとってわかりやすく、おもしろい図鑑を作るために、どんな工夫をしたか振り返る。 ＊グループでの話し合いを通してわかった、自分や友達の文章のよいところはどんなところか振り返る。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ 【思考・判断・表現】 ①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ ②「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(B1)ア 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。
言葉の文化③ 故事成語 教科書:P68 △故事成語の意味を知り、友達に紹介するためのカードを作る。 ★学習用語：故事成語	1. 教材文を読んで、知っている故事成語について話し合う。 ＊「五十歩百歩」を読んで、意味と成り立ちがあるという故事成語の特徴をおさえる。 ＊「五十歩百歩」「漁夫の利」「蛇足」「矛盾」にあてはまるような日常生活の場面を想起し、故事成語がどのように生活の中で使われてきたのかを考えさせる。 2. 教科書P73に例示されている故事成語について、辞典を使って意味と成り立ちを調べ、 ＊辞典や故事成語について書かれた書物を使って調べ、ノートにまとめさせる。 3. 故事成語を集めて、もどになった故事や意味を、辞典を使って調べ、カードに書き、互いに交流する。 ＊辞典で、集めた故事成語の用法も調べさせる。 ＊使いやすい大きさのカードを用意しておくとい。カードを交換して、友達どうして読み合うようにする。 4. 好きなカードを選び、それぞれの故事成語の意味として書かれた場面(意味)を、これまでの自分の経験や生活の中の一場面でたとえる簡単な文を書き、発表する。 ＊故事成語の意味が自分たちの生活の場面に正しくたとえられているか、確認する。 ＊みんなの発表がわかりやすく簡潔になっているかどうか、評価する。 5. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ 【思考・判断・表現】 ①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B1)ウ 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に、長い間使われてきた故事成語の意味を知り、学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
詩を読もう いろいろな詩／おおきな木 教科書:P74 □さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。	『いろいろな詩』 1. それぞれの詩を読み、感じたことを発表し合う。 ＊題名と詩とのイメージのつながりを話し合う。 2. それぞれの詩の題名から、どのようなことを思い浮かべるかを考える。 ＊題名から浮かぶ、自分なりのイメージを一行程度の言葉で表す「一行詩」を作る。 ＊B5の大きな白い画用紙を用意して、自分が作った一行詩を書く。時間があったら、題名を隠しておいて、仲間に向けて「詩の題名当てクイズ」を行うとよい。 『おおきな木』 3. 詩を音読し、内容を把握する。 ＊「おおきなつ」や「うけうけ」などの言葉に気をつけて内容を理解させる。 4. 詩に見られる表現の工夫を考える。 ＊気がついたことや思ったことなど、自由に発表し合うように促す。 ＊表記の工夫、視覚的な効果。(作品全体が木の形になっている。)必ずこの効果について話し合う。 ＊初行と終行との対応 ＊「おおき」の繰り返し ＊「おおき」の意味の違い ＊方言(関西弁)のおもしろさ	【知識・技能】 ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ウ 【思考・判断・表現】 ①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(C1)エ 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(C2)イ 【態度】 ・すすんで、詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習の見通しをもって発表し合おうとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
漢字の広場⑤ 熟語のでき方 教科書：P78 △二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について、問題を解きながら確認し、二つの漢字のつながり方を考える。 ★学習用語：熟語	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊熟語のでき方を理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確かめ、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ＊三下『漢字の広場⑥』二つの漢字の組み合わせ』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 2. 「高温」「寒冷」「苦寒」という言葉にある二つの漢字の意味のつながりを考える。 3. 「熟語」の定義を知り、漢字の意味を考え、熟語の構成について理解する。 ＊「熟語」は今後も常用する用語なので、定義をしっかりとっておさえるようにする。 4. 「良薬」を例に「上の漢字が下の漢字を修飾する熟語」について考える。 ＊熟語をもとの単語に分解し、意味を類推できるようになることが重要である。 ＊「良薬」から「良い薬」と読み下すとともに、「良い薬」から「良薬」を想起できるようにすることも大切である。 ＊四上の『修飾語』での学習を生かすようにする。 5. 「お祝いの日」「清らかな流れ」という意味を表す熟語を考え、話し合う。 ＊考えた熟語をもとに短文を作り、もとの語句と比べるとよい。 (例)山おくの清らかな流れに魚が泳ぐ。 山おくの清流に魚が泳ぐ。 6. 「関係のある意味の漢字がならぶ熟語」について考える。 ＊「意味のうででつながりのある漢字がならぶ熟語」は、現代日本語の二熟語のうち約2割を占める。使用機会が多いことと、抽象的な概念を表す語に多いことから、この教材で意識的に取り組み、漢字の意味から語句の意味が想起できるようにしたい。 ＊国語辞典や漢字辞典を活用して、漢字の意味と語句の意味との関連を調べるようにする。 7. 「思考」のような「にた意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめる。 ＊漢字どうしが類義語の関係になっていることをおさえる。 (例)学習→まなぶ→ならう 8. 「前後」のような「反対の意味の漢字を組み合わせた熟語」について問題に答えたり、集めてノートにまとめる。 ＊漢字どうしが対義語の関係になっていることをおさえる。 (例)多少→おおい→すくない 9. 国語辞典や漢字辞典を使い、集めた熟語の意味を調べる。 ＊辞典を活用して、一つ一つの漢字の意味を確認し、熟語の意味と対比できるようにしたい。	【知識・技能】 ⑤第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)(エ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
三年生で学んだ漢字⑥ 教科書：P80 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	10. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊P80の絵を拡大して黒板に貼っておくと、指導する事柄と児童たち全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる町の様子をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 11. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊読み手が理解しやすいように、伝えたいこと、知らせたいことを明確にして書くようはたきかける。 ＊条件をつけて文を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊内容にふさわしいある文を二つ以上書くようにすると、言葉を選択して使っているかどうかのわかりやすくなる。 12. 書いた文を見直し、適切な表現に変えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確認し合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 13. 学習を振り返る。 ＊熟語のでき方について正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ⑤第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)(エ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B)(1)(ア) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B)(2)(ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、教科書の絵の中の言葉を使って文を書くようとしている。
五 自分の経験と結びつけて考えたことを伝え合おう くらしを便利にするために 教科書：P82 □「便利」とはどのようなことを考えながら読み、自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 ★ここが大事：経験と結びつけて読む ★学習用語：引用／具体例	<見通しをもとう> 1. 身のまわりにある便利なものについて考える。 (1)自分が便利と思うものをあげ、その理由を考える。 (2)自分と考えるものとその理由について、友達と話し合う。 (3)「便利」とはどのようなことを考える。 ＊自分の生活体験から考えさせる。 <たしかめよう> 2. 具体例を通して「便利」について考える。 (1)本文中に書かれている具体例の数を確認する。 (2)それぞれの具体例について、筆者は、だれにとつて「便利」で、だれにとつてそうでないかと述べているかノートに表を描いて整理する。 (3)全体で確認する。 <くわしくよう> 3. 筆者の考えを捉える。 (1)文章構成を確認する。 (2)「終わりの」部分を重点的に読み、筆者の考えを読み取る。 (3)筆者はこの文章を通して「便利」であるとはどのようなことだと述べているか整理する。 <まとめよう> 4. 筆者の考えと自分の考えを比べてまとめる。 (1)筆者の考えを確認する。 (2)第1時でもった自分の考えと筆者の考えを比べる。 (3)まとめたことを発表する。 ＊自分の考えをもつとき、自分の経験をもとにまとめるように促す。 <つたえあおう> 5. 前時にまとめた考えを発表し、共通点や相違点を明らかにする。 (1)まとめたことをグループで発表する。 (2)発表をもとに、共通点と相違点を明らかにする。 (3)明らかにしたことを隣どうして伝え合う。 <ふり返ろう> 6. この学習を通して「気をつけたこと」を整理し、次の学習に生かすことができるようにする。 (1)「便利」ということについての筆者の考えを読むとき、どのようなことに気をつけたのかを発表する。 (2)「だれにとつても『便利』である」ことがどのようなことなのかまとめるとき、どのようなことに気をつけたのかを発表する。 (3)学習の感想をまとめる。	【知識・技能】 ⑥考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)(ア) ⑥比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)(イ) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B)(1)(ウ) ⑥「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C)(1)(オ) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C)(1)(カ) 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B)(2)(ア) ・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。(C)(2)(ア) 【態度】 ・積極的に筆者の考えと自分の考えを比べながら読むことを通して、具体例な経験をもとに考えをまとめることの有効性に気づいている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
目で見える言葉で話そう 手話であいさつをしよう 教科書：P92 ◇声を使わないで考えや思いを伝え合う手話について知り、簡単な挨拶をする。 ★学習用語：手話	1. 手話を見た経験について話し合う。 ＊手話は声を使わない目で見える言語であることを確認する。 2. 手話で挨拶を表現する。 (1) こんにちば、よろしくお聞いします・いただきます・ごちそうさま・ありがとう ＊体験する段階なので、声で補ったり、動画で確認したりするなど、手話に親しむことができるように配慮する。 ＊朝の会や授業開始の挨拶等で実際に使ってみるとよい。 (2) 他にも手話で知りたい表現がないか話し合う。 ＊図書資料やタブレットなどで調べてみてもよい。 3. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。(1)ア) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A1)ア) 【言語活動例】 ・互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。(A2)ウ) 【態度】 ・手話には考えや思いを伝えるはたらきがあることに気づき、学習課題にそってすすんで手話であいさつをしようとしている。
六 調べてわかったことを発表しよう 「便利」をさがそう 教科書：P94 ◇調べてわかったことを、相手に伝えるように資料を示したり、話し方を工夫して、発表する。 ★ここが大事：資料を使って、伝えるようにくふうして発表する ★学習用語：引用／出典	<見直しをもうと> 1. 単元名やリード文を読み、調べたわかったことを資料を使って発表するという活動内容を確認し、学習計画を立てる。 (1) 調べてわかったことを発表した経験を振り返る。 (2) 資料を示して発表することを確認する。 ＊教科書P94からP101までの内容を確認め、単元の活動全体をつかむようにする。 <決めよう・集めよう> 2. 身のまわりの道具や設備について振り返り、どんな人でも使いやすくなる工夫についてどんなものがあるか話し合う。 ＊ユニバーサルデザインやバリアフリーといった視点で考えるように促す。 3. 詳しく調べたい道具や設備を決め、どんな人でも使いやすい工夫について調べる。 ＊4～5人の小グループごとにテーマを決める。 <組み立てよう> 4. 調べてわかったことを整理し、発表の組み立てを考えて、練習する。 (1) 調べてわかったことをもち寄り、発表の組み立てを考える。 ＊P96の発表計画表をもとに、発表の組み立てについて話し合う。話す内容と、どの資料をどのように示すか、P97の資料例を参考に考えるようにする。 (2) 発表の練習をする。 ＊「○○という本によると…」この資料は○○というサイトから引用したものです」など、資料を示す際の言い方について確認する。 ＊聞き手のことを考えて、資料の使い方や間の取り方に気をつけるようにする。 ＊発表について協力するグループを決め、互いに練習を見せ合い、意見をもらってもよい。 <話そう・聞こう>(重点) 5. 発表会を行う。 (1) 話すめあて・聞くめあてを確認する。 (2) グループごとに発表をする。 <伝え合おう> 6. 質問や感想を伝える。 ＊グループの発表ごとに質問や感想を伝える時間をとる。発表、質問、感想の流れを繰り返すようにする。 <ふり返ろう> 7. 学習を振り返る。 ＊P101「ここが大事」を確認し、図などの資料を使って発表するとき、聞き手に伝えるためにどんな工夫をしたか振り返る。	【知識・技能】 ◎比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ) 【思考・判断・表現】 ◎「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A1)ウ) 【言語活動例】 ・質問などとして情報を集めたり、それらを発表したりする活動。(A2)イ) 【態度】 ・身のまわりの「便利」について調べ、わかったことを図などの資料を示しながら、言葉の調子や強弱、間の取り方に気をつけて発表しようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	学習活動／＊留意点	評価規準 学習指導要領との対応
言葉の広場⑤ 点(・)を打つところ 教科書:P102 △読点のはたらきを理解して、正しく使い分ける。 ☆学習用語:読点	1. 学習内容を理解し、日常化への見通しをもつ。 ＊教材冒頭の例文によって、日常の言語生活との関連を意識づける。 2. 「なぜを早く治すには……」の例文を読み、読点のはたらきや読点の必要性について話し合う。 ＊例示された文を声に出して読むことで、なぜ、読点を打たなければならないのかの問題意識を明確にたせる。 3. 例文に読点を打ち、意味がどう変わるのか確かめる。 ＊読点を入れて読むことで、読点を読みやすさに及ぼす影響を考えさせる。 4. 読点の打ち方の原則を理解する。 5. 「点を打つ場所」に気をつけて、設問に取り組む。 ＊どのように打つべきかの原則を、教科書にそって学習する。 ＊適切に区切って、読みやすい文章を作るようにする。適切に区切れるかは、文の意味を理解しているかにつながる。 ＊文を書くときにも、読む人の立場に立って読点を打つようにする意識をもたせたい。 6. 学習を振り返る。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(11)ウ ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(11)カ 【態度】 ・すすんで句読点のはたらきを理解し、学習課題にそって、文や文章の中で適切に使うとしている。
七 伝えたいことをはっきりさせて書こう 自分の成長をふり返って 教科書:P104 ■様子がわかるように、よりよい表現を選んで書く。 ★ここが大事:伝わりやすい組み立てて書く／文章を読み返す ☆学習用語:組み立て表／会話文／段落／主語／述語	<見通しをもとう> 1. 「学習の進め方」を読んで学習の流れを知り、見通しをもつ。 ＊教科書を読み、「学習の進め方」を確認し、単元のゴールを明確にする。 ＊教科書の作品例を読み、羽田さんが工夫していることを確認する。 ・題名の工夫・書き出しの工夫 ・構成の工夫「始め」「中」「終わり」 ・いちばん書きたかったこと <決めよう・集めよう> 2. 自分の成長を感じたできごとを思い出し、書くことを決める。 ＊xにどんな書き出しで、思い出させる。 ＊一人で思いつかない児童には、友達にインタビューさせて書かせるなど、まず口頭で言わせるようにする。 <組み立てよう>(重点) 3. 組み立て表を書き、友達と意見を交換する。 ＊友達からもらった意見を参考にして、組み立て表を見直し、書く内容を考え直す。 ＊組み立て表をもとに交流し、いちばん伝えたいことを一つにしるようにする。 ＊中心となる場が「中」になるようにする。 ＊友達の意見を参考に、組み立て表を見直し、もう一度書く内容を整理させる。 ＊いちばん伝えたいことが詳しくなるように、友達に質問してもらい、詳しく書けるようになる。 <書こう> 4. 文章を書く。 ＊中心となる場を「中」にし、詳しく書かせる。 ＊会話文や心内語を多く入れるなどの工夫を促す。 ＊段落意識をもたせ、場面ごとに段落を変えるようにする。 <読み返そう>(重点) 5. 文章を読み返す。 ＊中心となる場が詳しいか、文字のまちがいや主語・述語のねじれはないか、気持ちを表す言葉はその言葉で適切か、段落分けはできているか、などを確認する。 <伝え合おう> 6. 文章を読み合い、感想を伝え合う。 ＊内容面で感想を伝えるだけでなく、書き方の工夫も伝えるようにする。 ＊心の動いた場が詳しく書けたかどうか振り返らせる。 <ふり返ろう> 7. 学習を振り返る。 ＊文章の組み立てを考えたときに、どんなことを工夫したか振り返る。 ＊どんなところに気をつけて文章を読み返したか振り返る。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(11)ウ ○主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(11)カ 【思考・判断・表現】 ◎「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B11)イ ◎「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B11)エ 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・積極的に、書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い、学習の見通しをもって、よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。
言葉の文化④ 雪 教科書:P110 △「雪」を扱った言語表現を集める。 ☆学習用語:「雪」に関わる言葉	1. 教科書の文章から「雪」を使った表現や歌を知り、声に出して読む。 ＊「雪月花」の意味を知り、上巻で学習した「月」の言葉や表現を思い出し、「雪」や「花」について言葉や表現を集める意欲をもたせる。 ＊「雪」を使用した言語表現の多様さに気づかせる。また、和歌や唱歌を音読して、文語のリズムに親しませる。 2. 「雪」に関する歌や言葉を辞典などを使って調べて、ノートに書く。 ＊どのような種類の辞典や参考書を見ればよいのかを考えさせる。 ＊発展として、「花」の表現研究を家庭学習などとして促すことも考えられる。	【知識・技能】 ◎長い間使われてきたことわざや慣用語、故事成語などの意味を知り、使っている。(13)イ 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B11)ウ 【言語活動例】 ・調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。(B2)ア 【態度】 ・すすんで、長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし、学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。

単元名／教科名／教科書ページ 学習内容 ★ここが大事／★学習用語	学習活動／★留意点	評価規程 学習指導要領との対応
漢字の広場⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け 教科書：P112 △異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって、漢字を読んだり書いたりする。 ☆学習用語：同じ読み方の漢字／訓読み	1. 学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ＊同じ読み方の漢字の使い分けについて理解し、漢字を正しく使うことができるようになるという学習課題を確め、今後の学習に生かしていくよう意識づける。 ＊三上『漢字の広場②』漢字の音と訓』で学んだ内容の定着状況を把握しておく。 2. 「はい」を例に、場面の様子や意味をもとに同じ訓の漢字の使い分けについて考え、話し合う。 ＊例文を音読し、意味を考えるようにする。 3. 場面の様子や意味をもとに「鳴く・泣く」の使い分けを考える。 ＊人が涙を流すのは「泣く」、鳥・けもの・虫が「なく」ときは「鳴く」と書くことを確認する。 4. 「以外・意外」「機械・機会」を例に、同じ音の漢字の使い分けについて、熟語の意味をもとに考え、話し合う。 ＊同音や同訓の語の中には、「以外」と「意外」のようにアクセントによって弁別できるものがある。同じ読み方の部分に注意しながら用例の文を声に出して読み、言葉の響きへの関心を高めるようにしたい。 5. 同じ訓の言葉(異字同訓)や同じ音の熟語(同音異義語)のそれぞれの意味を国語辞典で調べて、短文を作り、漢字の使い分けについて話し合う。 ＊組みごとのそれぞれの漢字のもつ意味と使い方を正しく理解できるようにすることが大切である。国語辞典を利用し、それぞれの漢字の意味や使い方(熟語など)、用例(文など)を調べて比較し、整理できるようにしたい。 6. 同じ読み方の漢字の使い分けについては、別の言葉に言いかえて考えるという方法を知る。 ＊「熟語をもとの単語に分解し、意味を類推する」という『漢字の広場⑤熟語のでき方』での学習を生かすようにする。 7. 別の言葉に言いかえる方法を使い、P113下段の設問を解き、それぞれの言葉の違いを国語辞典で確認する。 ＊あてはまらないほうの言葉を使った文を作り、意味の違いを比べようとい。 (例)全員がいっしょに席に着く。 ほこが、みんなの席に付く。 8. 異字同訓や同音異義語を使った短文を作り、それぞれの意味の違いを話し合う。 ＊同じ読み方であっても漢字や熟語の意味が全く異なることがあるおもしろさに気づかせることが大事である。言葉の使い方の感覚にいっそうの関心をもつことができるようにしたい。	【知識・技能】 ◎漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(11ウ) 【態度】 ＊すでに同じ読み方の漢字の使い分けを理解し、学習課題にそって、文や文章の中で正しく使おうとしている。
三年生で学んだ漢字⑥ 教科書：P114 △絵を見て想像したことをもとに、3年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	9. 教科書の絵を見て、描かれている様子について説明する。 ＊漢字の使い方や表記などを理解できるようにし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。 ＊P114の絵を拡大して黒板に貼っておく、指導する事柄を見えたら全体に示しやすくなる。 ＊絵の中にある3年生で学んだ漢字の読み方を再確認する。 ＊絵に描かれたことと、言葉からわかる事柄をできるだけたくさん発表できるようにする。 ＊描かれている人物と行為、場や時間の状況、物品など、視点を提示するとわかりやすい。 10. 3年生までに習った漢字を使って、絵に描かれている様子や物、人物がしていることなどを説明する文を書く。 ＊絵に描かれている図画の中から、中心に述べたいお話を一つにしぼり、文章の構成を考えるようはたらきかける。 ＊条件をつけて文や文章を書くように促すと、記述の仕方に工夫がみられるようになる。 ＊内容にふさわしいある文を二つ以上書くようにすると、言葉を選択に使っているかどうかよくわかりやすくなる。 11. 書いた文を見直し、適切な表現に替えたり、まちがいを正したりして、発表し合う。 ＊敬体と常体が混在している場合は、読み直して、どちらかに統一するようはたらきかける。 ＊正しく漢字が使われているかを確かめ合う。 ＊互いの文や文章のよいところを発表し合うようにする。 12. 学習を振り返る。 ＊同じ読み方の漢字の使い分けについて正しく理解したり、漢字の使い方や表記などを理解できるようにしたりし、日常の言語生活にも生かしていくよう意識づける。	【知識・技能】 ◎第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(11江) 【思考・判断・表現】 ○「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつつたり、段落相互の関係に注意しりして、文章の構成を考えている。(B11イ) 【言語活動例】 ・詩や物語をつくるなど、感じたことや想像したことを書く活動。(B12ウ) 【態度】 ・積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い、学習課題にそって、お話の一場面を書くようとしている。

単元名／教材名／教科書ページ	学習活動／＊留意点	評価標準 学習指導要領との対応
学習内容 ★ここが大事／★学習用語		
八 登場人物のせいかくや気持ちのうつり変わりを読もう 人形げき 木竜うるし 教科書:P116 □登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考えながら読み、考えを伝え合う。 ★ここが大事: 登場人物のせいかくや気持ちの変化をとらえて読む ★学習用語: 脚本／ト書き／地の文	<見通しをもとう> 1. 単元扉を読んで、学習の見通しをもつ。 ＊初巻の感想を書き、それをもとに登場人物の性格や考え方の違いを読むという学習の課題を確認する。 ＊「木竜うるし」は人形劇であり、「脚本」の形で書かれている。脚本がどんな文章か、これまで学習してきた物語文と比べて確認させる。 ＊脚本は、「せりふ」と「ト書き」からできていることを知る。 <たしかめよう> 2. 作品の全体をつかむ。 (1)それぞれの場面でのようなできごとが起きたかを確かめて、おおまかにまとめる。 (2)登場人物について思ったことを書く。 <くわくしよう> 3. 登場人物の性格や気持ちの移り変わりを読み取る。 (1)「一」の場面の「深いふちのそば」を読んで、権八と藤六の性格について話し合う。 ＊「ここが大事」を確認し、せりふや行動を手がかりに、権八と藤六の性格の違いを読む。また、それが表れるように工夫して音読する。 (2)権八の気持ちが少しずつ変化していることがわかるせりふと、そこを選んだ理由をノートにまとめて発表する。 ＊起伏する感情や意思が大きく表れている箇所を線で引いていけば考えやすい。 ＊権八は、自分の欲の深さを多少は自覚している。そこから、気持ちが変わったわけを考えるようにする。 ＊権八は、冒頭と結末とで言動や気持ちに大きな変化が見られる。権八の気持ちが変化したのはどこからなのか、どのように変わっていったのかを、せりふを通して考えさせる。 ＊P140の「言葉」については、学習活動の中で適宜取り扱う。 <まとめよう> 4. 権八の気持ちが変わったのはなぜか、自分の考えをノートに書く。 ＊「変わったわけ」については、前後の状況を踏まえながら、根拠をはっきりさせて想像を膨らませるようにする。 ＊権八の気持ちの変化を、藤六との関わりも重ねて考えさせる。 <つたえあおう> 5. 権八と藤六の性格や、権八の気持ちの変化を、ノートに書いたことをもとに話し合う。 ＊どうしてそう考えたのか、根拠をはっきりさせて自分の考えを伝えさせるようにする。 <ふり返ろう> 6. 学習を振り返る。 (1)登場人物の性格や気持ちの移り変わりがどのような部分からわかったか振り返る。 (2)友達のことを聞いて、自分の考えと似ているところや違うところを見つけ、感想をもつ。	【知識・技能】 ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(I1イ) 【思考・判断・表現】 ◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(O1エ) ○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(O11才) ○「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(O11カ) 【言語活動例】 ・詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。(O2イ) 【態度】 ・積極的に登場人物の性格の違いや気持ちの移り変わりを考え、学習課題にそって、考えたことを根拠をはっきりさせて伝え合おうとしている。
国語の学習 これまで これから 教科書:P142 ■一年間の国語学習を振り返ったり、これからの学習について考えたりして、すすんで学習できるようにする。	1. 一年間の国語の学習を振り返り、自分が学んできたことを書き出したり話し合ったりする。 ＊上・下巻の教科書、学習のノート、作成物、プリント類(ポートフォリオ)などから振り返ることができるようにする。 ＊挿絵やふきだし、「四年生で学ぶこと」を参照する。 ＊楽しかったことを中心に思い出させる。 ＊心に残っている単元や教材、学習活動、また心に残っている言葉などを具体的にメモし、発表し合う。 ＊友達を発表を共感して聞き、交流し、学んできたことを共有できるようにする。 2. 5年生になったら1で出したことがどのように広がっていくのか、想像したり希望を出し合ったりする。 ＊5年生になって「またやってみたい活動」「もっと読んだり書いたりしてみたいこと」「取り組んでみたい活動」など、いろいろな観点で話し合うようにする。	【知識・技能】 ○相手を見て話したり聞いたりしているとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(I1イ) 【思考・判断・表現】 ○「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A11ウ) ◎「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B11ウ) 【態度】 ・すすんで話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、今までの学習を生かして、一年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。